

平成31年度 横浜創英大学

[看護学部 看護学科]

入学試験問題集

【総合問題】

1. 推薦入学試験〔公募〕(第Ⅰ期・第Ⅱ期)

平成 31 年度

横浜創英大学

〔看護学部 看護学科〕

推薦入学試験〔公募〕（第Ⅰ期）

総合問題

平成30年10月27日（土）

受験生に対する注意

1. 「始め」の指示があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. 指示があったら問題冊子と解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。
3. 問題は2ページです。
落丁、乱丁、印刷の不鮮明な箇所があった場合は、静かに手をあげて試験監督者に連絡してください。
4. 解答はHB又はBの黒色エンピツ、シャープペンシルを使用し、下敷きは使用しないでください。
5. 解答は別紙解答用紙に記入してください。
6. 試験開始後30分間は退場できません。30分を経過して退場するときは、静かに手をあげて試験監督者の指示に従ってください。
7. 問題冊子、解答用紙はすべて回収となります。

受 験 番 号

N					
---	--	--	--	--	--

氏 名

--

問題 今から70年以上も前のこと、第二次世界大戦に参戦していたアメリカでは、ニューヨーク州で、水道水へフッ素を付加すると、子どもの虫歯が予防できるかという研究が行われていた。

研究対象として、ニューヨーク州にあるニューバーグ (Newburgh) とキングストン (Kingston) の2地区が選ばれ、一方には水道水にフッ化ナトリウムを付加し、他方は水道水そのままにしたものであった。

この研究の流れと結果は次のとおりである。この観察内容及び研究データを見て設問に答えなさい。

【1944年6月 研究開始】

ニューヨーク州の2地区 (ニューバーグ、キングストン) で研究を開始した。

※ニューヨーク州の2地区は、共にハドソン川の西岸にある人口約3万人の地区である。

ベースライン・データ採取

研究の初めに2地区 (ニューバーグ、キングストン) の子どもの虫歯の数を調べて、その平均値を算出した。

(永久歯100本あたりの虫歯の本数の平均値は、
ニューバーグ：20.6本、キングストン：20.2本)

【1945年5月 観察開始】

1. ニューバーグでは、水道水にフッ化ナトリウム (フッ素イオン濃度として1.0~1.2ppm) を付加した。
2. もうひとつの対象地区キングストンでは、水道水 (フッ素イオン濃度：約0.1ppm) をそのままにした。

【1955年6月 観察開始から10年後の観察】

1. 歯科医による臨床診断とレントゲン線 (X線) 撮影を実施した。
2. レントゲン線写真の読影にあたっては、写真が無作為に並べ替えて、読影者に地区名がわからないようにして実施した。

永久歯を持つ子ども100人あたりの虫歯の本数 (年齢別)

地区名 \ 年齢別	6~9歳	10~12歳	13~14歳	15~16歳
ニューバーグ	98.4本	328.1本	610.1本	975.2本
キングストン	233.7本	698.6本	1,170.3本	1,648.7本

出典：Ast DB, et al : The conclusion of a ten-year study of water fluoridation. Am J Public Health 46:265-271, 1956. を基に作成。

設問1 研究の開始時にベースライン・データを採取した理由を枠内に説明しなさい。

設問2 レントゲン線写真の読影にあたっては、写真を無作為に並べ替えて、読影者に地区名がわからないようにして実施した理由を枠内に説明しなさい。

設問3 1955年6月の観察結果から、「永久歯を持つ子ども100人あたりの虫歯の本数（年齢別）」を年齢別に作成した理由を枠内に説明しなさい。

設問4 この研究の結論は何かということを枠内に説明しなさい。

設問5 この研究から、あなたが考えたことを枠内に述べなさい。

(総合問題 おわり)

平成 31 年度

横浜創英大学

〔看護学部 看護学科〕

推薦入学試験〔公募〕（第Ⅱ期）

総合問題

平成30年12月1日（土）

受験生に対する注意

1. 「始め」の指示があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. 指示があったら問題冊子と解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。
3. 問題は2ページです。
落丁、乱丁、印刷の不鮮明な箇所があった場合は、静かに手をあげて試験監督者に連絡してください。
4. 解答はHB又はBの黒色エンピツ、シャープペンシルを使用し、下敷きは使用しないでください。
5. 解答は別紙解答用紙に記入してください。
6. 試験開始後30分間は退場できません。30分を経過して退場するときは、静かに手をあげて試験監督者の指示に従ってください。
7. 問題冊子、解答用紙はすべて回収となります。

受 験 番 号

N					
---	--	--	--	--	--

氏 名

--

問題 次の【表1】は、わが国の総人口と年齢3区分別人口構成比(%)の年次推移を示したものである。
このことを参考にして、設問に答えなさい。

【表1】 わが国の総人口と年齢3区分別人口構成比(%)の年次推移（昭和25年～平成27年）

年次		総人口(千人)	年齢3区分別人口構成比(%)			指標Ⅰ	指標Ⅱ
		総数	0～14歳 (年少人口)	15～64歳 (生産年齢人口)	65歳以上 (老年人口)		
昭和	25年	84,115	35.4	59.6	4.9	8	14
	30年	90,077	33.4	61.2	5.3	9	16
	35年	94,302	30.2	64.1	5.7	9	19
	40年	99,209	25.7	68.0	6.3	9	25
	45年	104,665	24.0	68.9	7.1	10	30
	50年	111,940	24.3	67.7	7.9	12	33
	55年	117,060	23.5	67.4	9.1	14	39
	60年	121,049	21.5	68.2	10.3	15	48
平成	2年	123,611	18.2	69.7	12.1	17	66
	7年	125,570	16.0	69.5	14.6	21	91
	12年	126,926	14.6	68.1	17.4	26	119
	17年	127,768	13.8	66.1	20.2	31	146
	22年	128,057	13.2	63.8	23.0	36	174
	27年	127,095	12.6	60.7	26.6	44	A

※厚生労働省「わが国の総人口と年齢3区分別人口構成比(%)の年次推移（昭和25年～平成27年）」のデータを基に作成。

設問1 わが国の総人口と年齢3区分別人口構成比(%)の年次推移について、簡潔に枠内に説明しなさい。

設問2 指標Ⅰの年次推移について、簡潔に枠内に説明しなさい。

指標Ⅰは次の式で定義されている。

$$\text{指標Ⅰ} = (\text{老年人口割合} \div \text{生産年齢人口割合}) \times 100$$

※この式の意味は、100人の生産年齢にある人が支えている高齢者（老年人口）の数である。

設問3 指標Ⅱの **A** の数値を求めなさい。計算は余白を使用してもよい。(小数点以下切捨て)

指標Ⅱは次の式で定義されている。

$$\text{指標Ⅱ} = (\text{老年人口割合} \div \text{年少人口割合}) \times 100$$

※この式の意味は、子ども（年少人口）100人に対して、高齢者（老年人口）が何人いるのかという数である。

設問4 老年人口割合が高くなることで、社会に与える影響や変化について具体例を4つ枠内にあげなさい。

設問5 【表1】を見て、あなたが考えたことを枠内に述べなさい。

(総合問題 おわり)